

読書について思う

秋晴の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

私は、自分を成長させる重要な「出会い」に「読書」があると思っています。その中でも、過去の偉人たちの自伝や歴史小説は、最良の人生の教科書です。



代表取締役社長 吉田治伸

いろいろな困難に遭遇した時、豊臣秀吉であり、劉備であり、松下幸之助が降りてきて、私にいろいろなアドバイスをくれます。203高地の乃木大将や、インパール作戦は負ける戦いとはどういったものか教えてください。たくさんのお勧めの本は、本田宗一郎「夢を力に」、吉川英治「三国志」、司馬遼太郎「竜馬がゆく」などです。今回は、「夢を力に」から印象に残ったメッセージを書きます。

- ・「私はいつも、会社のためばかりに働くな、という事を言っている。君達も、おそらく会社のために働いてやろう、などといった殊勝な心がけで入社したのではないだろう。自分はこうなりたいという希望に燃えて入ってきたんだろうと思う。自分のために働くことが絶対条件だ。一生懸命働いていることが、同時に会社のプラスになり、会社をよくする。」
- ・「一人ひとりが、自分の得手不得手を包み隠さず、ハッキリ表明する。石は石でいいんですよ。ダイヤはダイヤでいいんです。そして監督者は部下の得意なものを早くつかんで伸ばしてやる、適材適所へ配置してやる。そうなりゃ、石もダイヤも本当の宝になるよ。企業という船にさ、宝である人間を乗せてさ、舵を取るもの、櫓を漕ぐもの、順風満帆、大海原を、和気あいあいと、一つの目的に向かう、こんな愉快的な航海はないと思うよ。」

こんな会社がつくりたい。